

第6回美祢市総合計画審議会 議事録

日時 令和6年12月19日(木)14時00分から16時20分まで

場所 美祢市役所 301会議室

出席者

- ・出席委員17人 進士会長、藤井副会長、山田副会長、杉本委員、中野委員、安富委員
野原委員、水野委員、青木委員、折田委員、加藤委員、坂本委員
高須委員、松原委員、本山委員、森脇委員、綿谷委員
- ・欠席委員4人 倉増委員、大内田委員、竹尾委員、中元委員
- ・事務局 佐々木部長ほか5人

議事内容(要点筆記)

1 開会

事務局により開会～資料確認

2 協議事項

(1) 第二次美祢市総合計画後期基本計画について

事務局より資料1～資料4について説明

- 委員 令和6年から令和10年まで目標値が入っているが、この根拠は？数値が増えていくな
ら、何かをしてこの数値になるのか。
- 事務局 将来像を実現するためには現状から5年後にどれくらいの数値を達成しなければなら
ないかというところを各施策の担当課で掲げて、それに向けて計画の内容をどうすべき
かというような決め方をしている。現状はこういった数値で、目指していかないといけな
い目標値として掲げているものになる。5年後に美祢市を良くするために少なくともこう
いう数値を達成しないといけないとしたら、こういった取組が必要になるかというような
形で考えているものになる。
- 委員 目標は必ずいるので、それにどういう風にアプローチしていくかということいい。
この計画で目標を決めて、令和7年のやり方が良かった、悪かったとかというときのPD
CAとか、再評価はどういったところで表しているのか。
- 事務局 目標値は令和11年の5年後としているが、途中の計画値は進捗管理する上での数値
を示している。例えば、観光の交流人口では令和6年に130万人ぐらいを目指している。
いろいろ政策を打つ中で、担当課でそれぞれ何が良くて何が悪かったっていうのを判断し、
来年度、この審議会に内容をお示しして御意見をいただき、さらにいただいた意見をフィ
ードバックしていくというような流れを考えている。
- 委員 資料4の目標値の年度が令和10年度というのがある。中には令和8年度もあるが、目
標値のこの意味を教えて欲しい。
- 事務局 農業産出額等が令和10年度となっているが、把握できる数値が直近では令和4年度
ということである。一般的には令和5年度の数値が基準値だが、1年ずれての表記になっ
ている。同様に令和8年というのは5年ごとでしか掴むことができないデータが対象となっ
ている。
- 会長 今、事務局から説明があったように基準値はそれぞれ取って来る資料で年度がずれて

いるという説明で、その基準値からこの令和6年から令和11年までの間で、目的するところまで考えるのだと。その間に増えるもの、変わらないものがあると思うが、この審議会で、その進捗を管理していただきたいということで、次の議題としてその話が出てくる。

- 副会長 資料1の66ページの目標指標でふるさと納税応援寄付金があるが、その目標値が3億で基準値の約5倍になっている。前回の5年間で見ると、平成30年の基準値に対して令和5年実績が6,393万円で、目標に達していない。先程目標に対していろんな施策をやっていくということだが、5倍の目標に対して何か明るい話題があるのか伺いたい。
- 事務局 事務局としては頑張ると言いたい。まず、現状減っている理由としては、ふるさと納税の制度が変遷する中で、出せる返礼品、返礼品にできるものがいろいろ変わってきた。市の頑張りもあるが、元々の自治体を応援しようと制度の趣旨が、近年、返礼品が美味しいものかとか、日常に使えるものかということでの競争があって落ち込んでいる部分もある。一方で、ふるさと納税制度でしっかりと財源を確保できれば総合計画の施策をより充実させることができるので、難しい部分はあるが新しい返礼品を増やしていくこと、また、応援してもらえるようなまちづくりや事業を作って取り組むことで3億円を目指したい数値として提示している。
- 委員 文化協会加入団体数では。基準値が62団体で、目標値が65団体と、協会の立場を考慮された数値と感じている。この目標であれば頑張ろうという意識を持った。
- 委員 美祢市の認知度ランキング。仕事でよく県外に行くが、必ずと言っていいほど「ミネシ」と読まれない。地名を認知していただくことは結構重要と思う。観光もあるし、このあたりは重点を置いた方がいいと思う。これを含めて、この数値は何か？
- 事務局 資料にあるとおり地域ブランド調査という民間会社が実施する調査で、全国の1,000自治体の中で、ここに掲げているような質問に対しての答えを加重平均で集計している数値で、美祢市の順位が687位ということ。観光等のプロモーションとか様々な形で市の知名度を上げていくことで、これらの順位を上げていきたい。
- 委員 今の件に関して、指標にはランキングがいろいろあるが この分母はいくつかあるのか。
- 事務局 これらランキングの分母は1,000になる。
- 会長 67ページのオンライン手続の基準値が30件で、目標値が90件というのは良く理解でき、国が示している計画で市が優先的に取り組むものが53件という説明だが、計画にこの53件という数字が全く載っていない。だから、来年以降その知識がないので、今の説明を文章の中に工夫いただけないかなというのが1点。ふるさと納税の話も同様で、こういう議論したというきっかけにもなるので。これは意見というよりは、要望です。
- 事務局 この指標だけで分かりやすい、分かりにくいってことはごもっともな御意見と思う。一方で、国の制度を前提としているものは、制度や対象が変わってしまうこともあるので、計画の外で議論が充実するような準備はさせていただければと思う。
- 委員 日本全体、世界で言われているエネルギー危機、脱炭素は、大変大事なことだと認識していて、美祢市もバイオマスを活用するプロジェクトがあると伺っている。ぜひどんどん進めていただきたい。この公共施設導入数も、どんどん押し広げて、公用車も極論すれば全て電気で行くような美祢市であつたらいいと思う。この4施設と12施設の計画の具体的な内容を教えてもらいたい。
- 事務局 対象施設は、今すぐ出せないのが、後でお知らせできればと思う。基本的には、太陽光パネルが設置できるような施設で選ばれていることは間違いない。
- 委員 この数値をどんどん拡張していただけたらと思う。
- 会長 それでは、若干意見が出ましたが、それも含めて検討いただくということで、パブリックコメントを進めたいと思いがいかか？

○委員 了承

○会長 ではこれで、パブリックコメントで意見をいただくようお願いする。

(2) 第二次美祢市総合計画前期基本計画の進捗管理及び第2期美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理について

事務局より資料5～資料8について説明

○会長 資料5の基本計画の基本目標③の未達成が43.5%と、子供に関するところはなかなか厳しいという説明だが、どの辺がやっぱり1番厳しいというふうに思っているのか、そこをどういうふうに考えているのか説明があると理解が進むと思うが。

○事務局 資料の7の5ページからが、それぞれの指標の一覧表になる。1番上の地域子育て拠点の延べ児童数では、平成30年は1,522人で、令和5年実績が1,324人で未達成。令和2年頃はコロナの影響で利用者数が減っているが、それ以上に絶対数として子供の数が減っているの、コロナ禍後の利用状況が持ち直してはいるが、目標達成若しくは改善に至っていない。これと同様に地域教育ネットの設置数や放課後の子供教室の延べ参加者数等も、どうしても絶対数が減ってきた中で、当初想定している目標に対して未達成で、平成30年よりも数値が下がっている状況がある。

○会長 それを受けて今度は、ちゃんと見直しはしていくって説明だったということ？

○事務局 全てが解決できる問題ではないが、少しでも取組を現状の中で改善できるような形で進めていく。後期計画の目標設定に関しては、絶対数が減って伸び悩むところは、今の現状値よりも少し下がった数値でもその数値を維持していきたいというような形で、目標設定させていただいている。

○事務局 先ほど御質問いただいた太陽光パネルの施設数で、4施設は令和5年度の数値で、今年度既に着手しているものも含めて言うと、大田小学校、大嶺中学校、厚保小学校、秋芳桂花小学校、学校給食センター、美東総合支所と秋芳総合支所の7施設が設置済み、今着手しているところになる。残りの5施設については、建物のポテンシャル的に導入できそうなどところで、関係課と調整中というところである。

○委員 太陽光を設置してその発電した電気をどうされる予定か？

○事務局 太陽光で発電したものを蓄電できないと基本的には、その建物で消費するしかない。既に導入しているところは基本的にはその建物の電力の一部又は全部を賄うようになっている。今後の展開として、いわゆる発電電力を売れるのかとか、他の施設に展開できるのかというような視点は、その担当の審議会で議論等がされているところである。

○委員 まずそれが一番大事だと思う。売電というよりは、災害時に使えるとかそういう形で、ストックできる蓄電はすごくいいと思う。以前にカーボンオフセットの考え方があったが、再生エネルギーの使い方とか、数値を出したりとかしていく方がいいと思う。あと基本目標の2番目が結構低いと思ったけれど、先程の少子化と一緒に、人が減っていくと、事業をしている者として非常に寂しい。学校がどんどん統合して人が減っていく方向ばかりに行ってしまう、今は学校の後をどうしていくかという話が出ている。やっぱり人が増えていかないと活性化していかないので、減っていくだけではなく、学校に魅力を作ろうと思うと、さっきも言ったように子どもが住みやすい、親も生活しやすいっていうのがある。子どもがいろんなものを選んで、スポーツをしたりとか、勉強もしっかりできるというのだったら、よそから人が来るかなとか、いろんな特性をもって話していきたいと思う。それが美祢市の中で美東町の端っこがどういう風に思われているかと思う。なかなかその辺が見えないことがよくある。また、創業もそうだけど、創業した人がそこでずっと住んでいけるような支援があるといいなと思う。事業承継も2件と書いてあったと思うが、やっぱり少

ないのかなとは思ったけど、起業をしたり、一緒にやりたいって人がうまくいけるようなことが推せるような感じであればいいなと思っている。

- 委員 今の御意見大変感動した。もっと大きな美祢市の魅力は何だろうかというときに、個人的な意見だが、美祢は自然エネルギーのまちになりつつあると、日本中が思うようなまちになっていけたら嬉しい。そうすることで若い人たちも定着するし、仕事もできくと思う。
- 会長 すごく大事な話で、総理が鳥取県の出身で地方創生に非常に力を入れてやられているというのは報道されているとおりで。人口が減少していくところもしっかり機能するような仕組みを、地方創生として補助したいということをおっしゃっているというのは、我々にとっても、美祢市にとっても、山口県全体にとっても非常に大きな課題だなと思って聞いている。そういう1つのモデルケースとして美祢市をどういう風に作るのかみたいなところも、議論しながら、地域で考えてるところ。先ほど委員が言ってるバイオマス資源は、カーボンニュートラルに繋がるとか、いろいろなことを考えながら施策の中に盛り込んでいただければなと思って聞いていた。

(3) 令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金の活用に関する実績等について

事務局から資料9について説明

- 委員 新たなモビリティサービスの調査・実証事業でMAASアプリというのを教えていただきたい。
- 会長 簡単に言うとタクシーの配車アプリみたいなイメージ持てばだいたい間違っていない。
- 委員 美祢市は、元々交通弱者が多くて、公共交通があまり発達しづらいところ。観光地もそこまで車が無いだろうと思っていたので、前から自動運転の実証実験してもらえないかとすごく思っている。観光地でニーズがあって自動運転で配車できて、観光地を巡ることができたらいいというのがあったのと、こういう地域でタクシーとか公共交通はどうしても人件費とか設備投資がかさむので、自動運転である程度ニーズがあったときに運用していけるとかっていうのはすごい重要になってくるかと思う。高齢者の方とかも1人、2人という場合が多いと思うので、大きなバスでよりあり得るのではないかなと思う。こういうことに特化して自動運転の実証実験をしますとか、PRも一緒にできるのではないかと思ったので、意見した。
- 事務局 美祢市内でも昨年度自動運転の実証実験をしている。今年も自動運転の実証実験に手を挙げさせていただいたが、国の審査で通らずにできていない部分がある。いずれにしろ交通弱者と呼ばれる方々の交通手段をどうするのかという課題は残っているので、それを踏まえた上で、美祢線の問題もあるので、ジオバスやジオタクといった交通手段の確保、路線バス以外の交通手段の確保、そしてそれを担う運転手の人材確保も含めて公共交通に取り組んでいるところ。ただ、御指摘の自動運転は、完全に無人運転というものが制度上でできない部分もあるので、動向を見ながら取り組んでいる。
- 会長 なかなか難しいところと、やりやすいところもあると思う。ただ、すごく必要なことだと思う。昔でいうと親戚のお兄ちゃんが連れてきたような時があったけど、親戚のお兄ちゃん自体が高齢者になって、もうそれもできないっていう時に、どうやって地域を守るかっていう1つの答えとしてはMAASのようなものをうまく入れていければいいなとは感じている。もっと言えば、高速道路をうまく使って、山口宇部空港から興産道路を通って自動運転で入って来られないか、そんなアイデアもあると思う。美祢市にもっと人を呼び込むにはどうしたらいいのかというのはMAASの取組を含めて考えるといい。
- 副会長 先程の説明で、既存の補助金では扱いにくいようなもののために使いますとあって、

正直、この交付金の性質を理解する人は少ないのではないかなど。是非もっと広く市民にも言っていただいた上で、既存の補助金では難しいこともデジタル田園交付金が使えないかなというようなことになれば、今まで考えてなかったようなアイデアにも使えることもあるのではないかなどと思った。資料の確認で、山口夢回廊は令和4年から令和8年までの5年間で、その事業費が3,000万円。交付実績がちょうど半分と全て交付されている。ただし、事業年度からすると令和4年から令和8年までということは、まだ事業が継続すると。事業が認められた段階で予定事業費が3,000万だとすると、その時点で半分を交付いただいて実績で使い分けていくというふうにされているのか？

- 事務局 まず施策に市民の声を拾い上げて実現に向けていくというのは重要なことで、そこはしっかり認識させていただければと思う。その上でこのデジタル田園都市国家構想交付金は、総理の下、検討されている交付金に移り変わろうとしているので、それが固まった際には、いろいろな人に分かるような形で活用していきたいと思う。事業費の件については、毎年度実績報告を出した上でその報告に応じて半額が交付される。この山口夢回廊は、令和5年度で交付された金額が記載されているもので、基本的には最初に支払われるものではなくて、毎年実績報告した上でその半分について国から交付金があるというような形になっている。
- 会長 先ほどの話にもあったように、この交付金はこれから増えてくる可能性あるので、しっかりと事務局としてはウォッチされて準備されていると思っているので是非頑張ってやってください。
- 事務局 補足にはなるが、地方創生交付金2倍っていうような言い方で報道されているが、これは国からの交付金が2倍になるだけで自治体側にそういったお金が配られているわけではない。国の要求を満たす事業と認定をいただければそれに見合ったお金がもらえるということなので交付金を活用するというよりも交付金を取ることを目指して今の事業を立て直したり、市民のためになる事業を始めたりと、そういった意味ではしっかりと動向ウォッチして事業の企画とか見直しを進めたいと思っている。
- 委員 取材をすることがあるので、どの事業も目にして馴染みがあったが、一般の方には伝わっていないのがちょっと残念だ。どの事業も地元の色を出した、工夫した事業で、終わってしまうのももったいないので、また新たにそういったものを見つけて提案し続けて欲しい。ここには海はないけど、カヌーとかSUP（スタンドアップパドルボード）とか、アクティビティを前面に出した観光誘致というのは面白いと思うし、山口夢回廊も含めて観光では、来年は関西万博、再来年はJRのデスティネーションキャンペーンもあるので、力を入れるとか。秋吉台は全国的に集客力というか、ポテンシャルがあると思うので、全国や関西からの外国人旅行客が広島宮島の宮島で止まっているのを、何とか山口県に引っ張る、その力を秋吉台が持っていると思う。そういうのを前面に出して、広域で観光振興を是非進めていただきたいと思う。
- 委員 健幸百寿プロジェクトのがん教育があるが、山口県のがん検診の受診率は全国で最下位と言われている。ぜひこの健幸百寿プロジェクトの特定検診受診率、これはがんだけじゃないとは思いますが、やはりこういったところも目標値50%に対して39.8%とちょっと低い数値ではあるけど、同じように受診率を上げてほしい。県でも、今3070と子宮頸がんへの取組をされていると思う。プロジェクト運営するのであれば、そういったことも含めていただきたい。
- 事務局 御指摘のとおり山口県のがん検診の受診率は低い状況にある。この健幸百寿プロジェクトは健康増進課が主導的に進めている部分ではあるが、今年、市立病院でも、乳がんのセミナーをしたり、このプロジェクトも含めて、受診率を上げる取組は進めているところ。そこで受診率が上がれば、健康に長生きする方が増えるし、活躍できる方が増えてくるところでそこはしっかりと努めていきたいと思う。

- 委員 健幸百寿プロジェクトのことで、せっかく美祢市には市立病院があるし、診療データをたくさんお持ちだと思うので、そうしたデータを活用して、がんに限らず、健康のために市民を啓発、指導ができるような仕組みができたらいいなと思っている。また、令和7年度に終了ということになっているが、もっと長く続けていっていただくと良いのかなと思っている。公設塾の方も令和7年度までとなっているけれど、なかなか教育関係は、成果を数値で示すのが難しいところではある。美祢市の課題、地元定着に向けた地域課題も、こういうものを通して地元がいいなと思ってもらえるような活動は非常に有効なものと思っているので、これも令和7年度と言わず、ずっと続けていっていただくと良いかなと思っている。
- 事務局 令和7年度という期間は、事業期間というよりも国の交付金が認められた期間になる。その上で、御覧のとおりかなりの金額がかかる事業なので、こういった事業をやる中では並行してこの交付金が切れた後もどう続けていくかということも含めて、進めている。1つの手段がふるさと納税であったり、企業版ふるさと納税であったりということだが、それだけではなくもっとコストを見直して一般財源から可能な方法はどうかなど、それらも含めて良い事業は続けていきたいと各課も検討している。また、このデジ田が終わった後、新しくできる交付金を活用した後継事業としてできないかということも動向注視しているところである。

(4) 過疎地域持続的発展計画の推進状況について

事務局から資料10について説明

- 会長 資料10の(1)の1の基本目標に目標値があるが、目標値に対して今そこに到達していない差分のマイナスは、マイナスのまま令和7年度までいっても問題ないのか。
- 事務局 先ほどの説明とおり、令和3年度に計画を立てているところで、この計画を立てた時の目標値が、当時の人口ビジョンであったり、財政計画というところから、数値を掲げている。御承知のとおり人口についてはどうしてもそこまでたどり着かないような状況があるところ。財政力についても災害とかあって若干たどり着いていない状態にある。これを修正しなければならないかどうかっていうところは、今後、法がどうなるか分からないが、令和7年度まではこの計画のままというようになっている。
- 会長 言いたかったのは、過疎債での支援を途中で打ち切られてしまうというようなことはないかと心配しただけで。
- 事務局 それはない。そうは言ってもその目標に向かっていき過疎地域の脱却というところがあるので、有利な財源を活用して事業を進めていくということである。
- 副会長 根本的な質問で、総合計画の審議の中で、突然過疎債の状況の説明があったが、この審議会でこれをどう評価をするということで提示されたのか。正直、過疎債の要件とか分からない。一般的には過疎債は非常に有利で、できるだけいろいろな財政支援、優先的に使いたいというのは分かるんですけど。この場でこれを提示されたその意図、そしてこの審議会で何をやらないといけないのか。まずそこを教えてください。
- 事務局 意図と申しますと、まずこの審議会で議論、評価いただければいけないというところは先ほど申し上げたように、総合計画事業が包含する過疎計画事業の財源活用状況を公表し、議論いただくことになっている。過疎債は簡単に言えばお金を借りているような状況である。お金を借りて政策を実施している以上、その借り方そして使い方が適切なのかということを第三者の目から見ていただく必要がある。過疎債は、かなり有利なものだが借りて使っている以上、過疎計画や総合計画に従ったものになっているのかということを見ていただく。事務局としては不適切なことには使っていませんと、過疎債の上限も決まっているので、本当に必要などころに回していると、第三者の目線から問題があ

れば指摘いただければというところで示させていただいている。

- 会長 確かに難しい用語がいっぱい出てくるという所ではあるが、1 番言いたかったのはきちんと検討の上で使っているというところで、不適切な支出には使用していないということは理解したいと思う。

(5) その他

事務局から資料 11 スケジュールについて説明

次回の会議：令和 7 年 2 月 12 日（水）14 時 00 分～

- 委員 これは会長にお願いした方がいいと思うが、今後、この審議会に進捗管理を行っていくとなると、委員の皆さんから質問等が出た時に、この担当部課だけではその質問に対する回答が難しいと思う。男女共同参画の審議会には各部長が全員出席されている。この審議会にも部長の出席をお願いできるように会長から言っていただけると、この審議会もスムーズに進むのではないかなと思う。
- 会長 そういう意見が出たということを事務局にお伝えしておく。よろしく願います。

3 閉会